

# メンテナンス&水処理特集 フィルター

プレ・メイン一体型洗浄再利用型フィルタ

ユニパック

## 「薫風」が空調フィルタで初めて L2-Tech製品の認証取得



松江 昭彦社長

ユニパック（社長＝松江昭彦氏、本社・埼玉県川口市）は、このほど自社製のプレ・メイン一体型洗浄再利用型フィルタ「薫風（くんぷう）」が、空調用フィルタでは初め

空調タイムズ  
2020年4月22日（水）

て、環境省が主宰するL2-Tech（エルツーテック）製品の認証を受けた。

L2-Tech製品とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出削減に最大の効果をもたらす先導的（Leading）な低炭素技術（Low-carbon Technology）を持つ製品の呼称。環境省は2014年度（平成26年度）より、L2-Tech情報の体系的な整理を行い、翌15年度（同27年度）からは認証制度として、最高効率を有する設備・機器等を「L2-Tech認証製品一覧」としてまとめ、情報発信、普及を推進している。L2-Tech製品には、冷媒・空調製品も数多く認証を受けているが、空調用フ

ィルタでは「薫風」が初となる。

ユニパックの松江昭彦社長は「L2-Tech製品の認証申請は数が多いため順番が回ってこず、やきもきしていたが、4年越しの提案が実現した。L2-Tech製品の認証は、省エネ大賞（薫風）は12年度（受賞）など社会的評価の獲得状況、業界団体等へのヒアリング結果、公共性が高い案件への納入実績など多岐にわたる評価項目があり、それらを全て満たさなければ取得できない。また、当該ジャンル（今回の場合は空調用フィルタ）で、別の新たな製品が、既存の認証製品（この場合は「薫

風」が該当）と競う場合は、既存製品を超える省エネ性や排出CO<sub>2</sub>削減量など性能で上回る必要があるが、「薫風」を凌駕するのは容易ではなく、当面は「薫風」が空調用フィルタで唯一のL2-Tech認証製品であり続けると思う」と話す。

「薫風」は、ユニパックのエコフィルタ事業で嚆矢となった製品。大手フィルタメーカー開発の無機不織系プレ・メイン一体型ろ材を、樹脂製枠に収めたもの。洗浄は年1回（または3千時間運転毎）で4回まで洗浄可能。洗浄は専属契約工

場でを行い、使い切ったフィルタはガス化改質施設で再資源化する。必要十分な集塵性能を持ちながら、従来型フィルタの200パスカルに対し半分近い110パスカルの低い初期圧力損失を実現。定風量方式の送風ファンならば、従来比で2割近い消費電力削減を見込める。洗浄再利用型であるため、2年目から年に1回の洗浄で性能を回復し、計4年間再生使用が可能と購入コストも大きく減らせる。

「薫風」は07年に東京ミッドタウンの主力空調フィルタとして4千個が採用されたのを皮切りに

三井住友銀行本店、みずほ銀行本店、埼玉りそな銀行本店等の金融機関、羽田空港第2旅客ターミナル、中部国際空港、関西国際空港等の国際空港など、著名施設での導入が続いているが、こうした面も、今回の認証取得では大いに評価された。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い先進諸国では自粛が広がり、地球温暖化防止や脱炭素化等の環境保全ムーブメントの社会的露出は目に見えて減った。しかし、省CO<sub>2</sub>化は国際社会での約束事となっており、コロナ禍終息後は再び話題の中心に戻ってくる可能性は高い。我が国も、先パリ協定において、30年度に13年度比で26割の省CO<sub>2</sub>化を約束してお

り、コロナ禍終息後は、民間建築を含め、多くの建物で、より省エネで、よりCO<sub>2</sub>を出さない製品を求め、動きが加速すると思われる。L2-Tech認証製品は、そうしたニーズを持つ人々が視界の中心に置くものであり、今回の認証取得は「薫風」にとって「新たな夜明け」（松江社長）に値する出来事と言えるだろう。

「薫風」は07年に東京ミッドタウンの主力空調フィルタとして4千個が採用されたのを皮切りに